

和歌山県 生協連ニュース

No.20



和歌山県生活協同組合連合会
TEL.073-474-9095 FAX.073-474-8649
<https://www.wakayamakenren.jp/>



2022年度の活動紹介

役職員研修会「和歌山県防災センター視察と防災・減災対策」を開催

2023年1月18日、和歌山県の南海トラフ大地震などの災害対応を学ぶ事を目的に役職員研修会を開催しました。

コロナウイルス感染症の影響で2年間中止となっていましたが、今回18人の参加で開催することができました。



2階の災害対策室では、県内各地の河川や高速道路のモニター画像、各放送局のテレビが設置され、災害が発生した時にはこの場所で知事が本部長となり指示を出すとの説明を頂きました。

当日は、防災センターの耐震・免震構造、屋上の自家発電機設置など和歌山県危機管理・消防課の萬谷主事より、詳しく説明を聞きました。また、屋上のヘリポートの見学も出来ました。



その後、和歌山県危機管理局災害対策課 片家課長より和歌山県の防災の考え方や、「災害から住民の命を救い、死者を0とする」ことを目標にとりくんでいること。東日本大震災と南海トラフ地震では、トラフまでの距離が短いため津波の到達が南海トラフの方が早い。津波の高さを想定し、すべての津波は防げないが津波の大きさを軽減するための防波堤などの建設をすすめている。ハザードマップの見方、特に避難所でもレベル1からレベル3までのランクがあり、レベルが上がるほど安全ですが、津波が到達するまでに逃げられる時間を考えて避難所を確認する必要があるなど詳しく解説いただきました。

参加者からは「コロナ禍で過去2回企画をして中止となっていましたが、今回開催できてよかった」「自生協でも勉強会を開催したい」など意見がありました。

南海トラフ大地震は、30年以内に必ず来るといわれています。災害発生に備え今からできることから対策準備をすることが減災・防災につながることを学んだ1日になりました。次年度も災害対応の企画を検討していきたいと考えます。

大学生への食の支援を実施しました。

大学生のくらしが、新型コロナウイルス感染拡大前の状況に戻っていないことを考慮し、大学生への食の支援として、和歌山大学消費生協・和歌山県立医科大学生協と連携し、2023年1月30日～2月1日の3日間、和歌山県生協連が調達提供した県産米を使用し、大学生協の食堂でライス各種を50円引きの価格で提供しました。

両生協の食堂利用者は合計2,563人（前週比103.1%）でその内ライスを利用した1,300人に食の支援できました。

特に医大生協では、食堂利用者が前週比111.7%と伸び、ライス利用者も108.2%と支持をいただきました。和歌山大学では、ライスを利用しやすい価格で提供した事により、L・LLサイズ等大きいサイズの利用者比率が16.4%から23.2%へ伸長し、しっかり食べたい大学生に支持がありました。



利用した大学生からは、「50円引きになっていたこともあり、いつもと同じ値段でサイズアップが出来ました！下宿していることもあり、その差額で小鉢を一品買えたのがありがたかったです。」
「普段あまり値段は意識していなかったのですが、いつもより値段が安く済んでありがたかったです！」「食事の時間は特に楽しみにしていますが、このようなイベントがあると更にうれしく思います。」などの声をいただきました。

役職員研修会「生協で働くこと」を開催しました。



2023年2月17日、生協で働く若手職員を対象に日本生協連関西地連運営委員会議長で大阪いずみ市民生協理事長の勝山暢夫氏を講師に向かえ、生協の理念・生協で働くことを学ぶための研修会をわかやま市民生協E*KAOホールで開催しました。

当日は、会場27人・オンライン14人、合計41人の参加がありました。講演では、「愛」をもって組合員の声に応える、組合員の立場、目線・身になって考えることや、正直は最良の政策であることなど、経験に基づきお話し頂き、職員が自身を見つめ直す機会となる、充実した研修会となりました。

第15回福祉活動交流会「泉南生協 福祉施設見学と事業の説明」



2023年3月22日、泉南生協さんの福祉施設を訪問し福祉事業の考え方を学ぶ研修会を開催し24人の参加がありました。和歌山市弘西の泉南生協福祉施設で山口常務理事から福祉事業の考え方について説明をいただきました。泉南生協は2000年から本格的に福祉事業に参入し、現在福祉施設として18棟（介護付き住宅・マスターズマンション・グループホームなど）984室を運営しています。入居率は常に90%を超え、複合型・循環型の運営をめざし、マジックルーム（食パン等製造）やセントラルキッチン（さくら）で製造した食材をグループの施設へ供給しています。

また、施設で出た残飯は、貝塚市の農場の肥料として活用、その畑でできた野菜は、工場でカットし、セントラルキッチンの食材としてしています。また、障害者の雇用を目的に、社会福祉法人「野のはな」を設立し、食パンの製造やセントラルキッチン等の運営は、社会福祉法人が担っています。

<施設見学>



サービス付き高齢者住宅（おひさま東）



セントラルキッチン（さくら）

泉南生協さんのご協力により、福祉施設の見学が実現しました。参加者は、会員生協で福祉事業にかかわる役職員も多く、積極的に質問が出されました。今回の評価として、アンケート（回答22名）では、大変よかった18人・良かった4人と高い評価となりました。

関係諸団体との連携

一斉 クリーンウォークin和歌山に参加しました。



2023年3月4日、「協同の力でよりよい地域社会を築きます」をスローガンにクリーンウォークin和歌山が開催されました。和歌山城周辺清掃には、JA和歌山中央会、和歌山県生協連、和歌山県森連、和歌山県漁連の17人が参加、県内全体では、62カ所1500人が参加したとりくみとなりました。

今後の活動紹介

●役職員研修会「賀川記念館と人と防災未来センター見学」

日 時 2023年5月9日（火）
場 所 賀川記念館見学と講和、人と防災未来センター見学
対 象 会員生協の役職員

スケジュール

8時30分 和歌山駅 東口出発
10時30分 賀川記念館
12時30分 慰霊と復興のモニュメント
13時00分 昼食
14時10分 人と防災未来センター見学
18時10分頃 和歌山駅 東口着予定

募 集 50人 ※申込は、会員生協迄



ホットな 消費者 見守りニュース72号

～消費者被害にあわないための最新情報をお届けします！～

高額商品を次々に販売する催眠商法(SF商法)にご注意！の巻

見守りポイント

- 催眠商法(SF商法)とは、閉め切った会場等に人を集め、無料や格安の商品を配り雰囲気盛り上げた後、売り込もうとしている高額な商品の説明を行い、その商品を購入させる手口です。
- 「商品がもらえる」「販売員の話が面白い」など、会場の雰囲気につられて通いつけて高額な商品を次々と契約させられてしまったケースもあります。
- 過量な契約をしていても本人は被害に気付いていない場合があるため、家族や周囲の人の見守りが大切です。

対処方法

- 会場等に行く前個別に勧誘を受け高額な商品の契約を断ることが難しくなります。「無料の商品」「楽しい話」につられて会場に近づかないことが第一です。
- クーリング・オフできる場合もあります。困ったときは消費生活センター等に相談しましょう。
- 家族や周囲の人は、本人に寄り添った話を心がけてください。本人は会場に行くことを楽しみにしている場合もあるため、頭ごなしに行動を否定すると逆効果になります。

和歌山県消費生活センター

和歌山市手平2丁目1-2
県民プラザ和歌山ビッグ愛8F
電話：073-433-1551
FAX：073-433-3904
(月～金)9:00～17:00
(土・日)10:00～16:00(電話相談のみ)
(祝日・年末年始を除く)

和歌山県消費生活センター 紀南支所

田辺市朝日ヶ丘23番1号
県西牟婁総合庁舎内
電話：0739-24-0999
FAX：0739-26-7943
(月～金)9:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)

※短縮ダイヤル☎188でもお近くの相談窓口につながります。

出典：2023年3月和歌山県消費生活センター発行より抜粋

協同組合がよりよい社会を築きます

和歌山中央医療生活協同組合・わかやま市民生活協同組合・和歌山県学校生活協同組合・和歌山県労働者共済生活協同組合
泉南生活協同組合・紀の国医療生活協同組合・和歌山大学消費生活協同組合・和歌山県立医科大学生生活協同組合
和歌山高齢者生活協同組合・メルシー生活協同組合・生活協同組合コープ自然派おおさか